

經典餘師

易經

三

口 11

1029

18

周易餘師卷之三

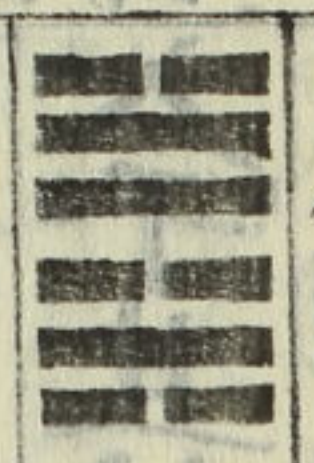
坎下 兌上



困亨貞大人吉无咎有言不信

初六殿目困于株木

周易餘師卷之三



坎下 兌上 兌上 兌上 兌上 兌上

困亨貞大人吉无咎有言不信

初六殿目困于株木

困于株木

困于株木

困于株木

困于株木

困于株木

周易餘師

周易餘師卷之三

九二酒食于困
朱紱方來亨
利無咎

六三石于困
疾藜于據其官
入其妻不見

の時ふ助しうづばみひめぐまざるてつ枝葉く
上より下へ助るゝかたれざるり初幽谷の底ふれ
相競るゝ三歳の久き間も ○九二困于酒食

朱紱方來利用亨紀征凶无咎 酒食ハ
うふの今方困むの時るれど九二の力て下へ恵む

明の亨紀ハ誠て用ゆるふたふ二と五と子と以て神
應むるゝ困むの時他ふ征凶るり輕くくは征

伐へ咎あり ○六三困于石據于疾藜
とら石も又水中の物るり一卦の意とて困むの卦乃

入于其宮不見其妻凶 疾藜ハ水中ふ生
中よりて坎難坎水の中とふふの水中ふ困るゝ石

九四來徐々
金車于困
各終有

九五劓則赤紱
困于乃徐
有說有祭祀
と用ゆる利

○九四來徐々
内外たふるゝ困究坎るんの時ハ
疾藜この二物づも扱ふのむのふあふ但二物を家

困于金車各有終 困究の時ふらりて人の
初六の應るゝあふも九二の隔さるるり金

○九五劓
車ふたふ困んでうゝ時ハ赤紱り
志れどもつねるゝ來がゆふ終有とふ

則困于赤紱乃徐有說利用祭祀
刑罰るり今人君困究のときふらりて我となさる

人るゝとて困るゝとて怒と發るふたふ赤紱ハ大臣
の服九二の賢者といふ君いりりのり何とて賢者
と得てカとせんと求困むゝ然れども應えらるゝつね
ハ來るゝとて故とて少く徐あれどもはねとらひ

系與食自

井邑せい改かいめて井せい

[REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]

井改邑不改井。无喪无得。往來井々。

と改め不喪无得
天往來井々う
汽ぐ至亦井り
縞せ未其瓶と
羸凶

初六井泥食不
舊井禽无

汽至亦未繙井羸其瓶凶

人々を邑とて移居

〇初六井泥不食舊井无禽

初六井泥不食舊井无禽

初爻ハ井ノ卦ノ下ニテ底ニテ坎ノ水上ニアル也水を
とハ初六應爻ノ助アル由ニ底ノ泥ニ凍テ水ヲ舉ル
ちトハ仍テモ一舊井ハ人ノ飲食ニトキヤラ
し人ハ水ヲ用フケモミナラレ落トシテものナ
クテ禽ノ餌ニトキモ物ナレバ鳥ノ來ル塵ヲ理
ちトハ義ニ人ニ世ナラレ更ニ出ルコトナレ

九三井谷射命射命癰癰故故漏漏

九三井九三決決食食不不
我我心心之之惻惻也也為為用用
汲汲可可王王明明並並受受
其其福福也也

天の命○九三井谷射射癰癰故漏の谷の井
泥より水なりと云ふれども水汲つて彼
ふりて此ふりて癰癰故漏なるがゆへ水漏て底有
小魚又へ蛙など射るるなりとも用ふ立ききと
の水なりとぞ射るかたなりといひ又いでて虫と
いひ又ふたのうと云ふ此の心九三大臣の身なり
きども井谷ふりてくといふのへするをせども
大ふりてくといひ○九三井決不食為我
心惻可用汲王明並受其福上より水に
たとい井とぞ決て水清しと云ふれどもいまだ汲
う用ゆるるなりといひ下卦ふりていまだ上出
ざるといふとく井決ふれどもいまだ人の飲食ふら
ざるこころを惻なりといふは汲て用へざる
まるとも王の明なりと云ふは空しく有
る上より知てけり用ゆる人並福幸と受るなる

六四井六四甃甃咎咎也也

九五井九五冽冽寒寒泉泉食食之之

上六井上六收收幕幕也也
勿勿子子有有元元吉吉也也

となり水より下るる賢者○六四井甃
上より民よりるなりとの義なり
无咎甃石なりと云ふて甃甃以て井の内
上より右立減て身今とのい人の義なり
拾別用なりといふなりと云ふなり
○九五井冽寒泉食上卦又
外より水井の口出るなり冽清なりと云ふ初六
泥より九二谷底よりいさなりといひ九三小水より
有と云ふ六四上卦よりいさなりといひ九五至
と云ふ水の功有と云ふ水は冷寒なりといひ
といふ人汲て用足るなりといひ九五の君の
りて下よりるなりと云ふなり○上六井
收勿幕有孚元吉水の徳は涌のりて物ふ
とも上るる水なりと云ふの象なり收水と云ふ
幕と云ふは幕と云ふは幕と云ふは幕と云ふ

離下兌上



離下 離火の上坎の水なり水やうんれき
兌上 火き炎なり相ひてうるなり
變トて干乾とれもの、變ト革改
とて卦名と革やうい

革己の日乃
孚元亨利貞
不利悔亡

革己日乃孚元亨利貞悔亡
奮く
き

初九
肇はらるる黄

初九肇用黄牛之革
俄はや改革
のトぬ

牛之革と用ゆ

六二己の日乃
吉
之と革征吉
り答元

六二己日乃革之征吉无咎
六二と臣
り君

九三征
貞
言三就孚有

九三征凶貞厲革言三就有孚
動

九四悔亡
孚有

九四悔亡
希なりとぞ

命を改む吉

九五大人虎変ぞ
占ふ未ふ亨有

有孚改命吉

内卦兌明ふして出外卦兌悔ぞ
○九五大人虎変未

占有孚

大人徳の人革命の君と虎の勇猛
て毛色文彩と以て智勇文武の徳あり

上六君子豹変
小人面革居

君子豹変小人革面征凶居貞吉

上六

の時不當に上爻變じて天火同人とある象有他卦の上六
不中正と説くと異あり此爻變革の終る
周流して豹も虎のたぐひありてける
の變じる心服するあり小人の表面と改革と
の既の上君子も變トなり小人畏服して善道ふつ
るなり革面とて面人のむくみとて心のむくみ

巽下離上

巽元吉亨

初六鼎趾と顛
否と出ふ利す
妾と得く其子
と以て咎无

鼎元吉亨

頤の卦養育の道ありて賢者中
より萬民ふ及ぶの吉とて鼎も養

初六鼎趾利

出否得妾以其子无咎

祭の夕ふ商

顛倒ふる道理ありとて咎无

九二鼎實有我
仇疾有我
即
能
不
吉
之

九三鼎の耳革ま
ず其行塞る雉
の膏食れ不方

ちるふつてりしと又これと可と成れとて妻と得て之と重
 ト寵むるに不可なりとども妻むるに可と成れとて妻と得て之と重
 妻とあつてみ用ゆるに可と成れとて妻むるに可と成れとて妻と得て之と重
 家道と繼て孝行の道ふりての切とすべく一説ふ已り
 鼎と清くそその内ふ煮飪一實と入有とす
 にとて妻の胎内ふ子とせしむるに可と成れとて妻と得て之と重
 鼎有實我仇有疾不我能即吉
 陽剛中
 實あり

中六の内は實の初六の疾とて、初六の否
 とて、初六の應は四も五も承に近いてその否の實
 の初六の汚易とて、九二中正剛徳を以て我
 身近づけ即ち小人の人と害となる初六ハ
 きと以て次第に疾に嫉通して疾妬となることあり
 九三陽剛にして十半と過るとは鼎の耳常ニ

終さい雨あめふり悔くて虧か
終さい吉きつ之

九四鼎足と折公
の鍊きと覆ひ
其形ち渥り
ぬり

六五鼎黃耳金
鉉貞不利

鼎黃耳金鉉利貞

造るるに於て黄ハ中央の

色より耳へ中空よりゆえ人の善言ときくはるゝふたふた
鼎も又容のものゝ金へ中正よりて離の文めいゝる君ふた

金火い入てなむとてか—堅固けんこ

○上九鼎玉

鉉大吉无不利

鼎の卦水ハ汲て上ふ出と成ル、
用と成鼎の卦食ハ烹て上ふ出と

以て用ゝる。鼎の卦烹飪の象とス。天下と申すは天下を
 君位の六五が備へる。と云ふ。鼎と提へ行ぬぐりて施予を
 とす。鉉ふと云ふはゆえ權威まゝとく上九の鉉ふなり。と云ふ。仍
 鼎の卦は功德と上九の鉉にたるなり。大吉なり。と云ふ。利
 ありぬ。と云ふ。

震下
震上



震下
震上

陰氣いんき上うへ凝こりつまり陽氣やうき内うち蓄たく激げき
して生氣せいき發達はつたつとるゝ以て亨こうして震

ハふふいゝぐとすむニ陰上ふあて
一陽下ふ屈とる形らなり

震亨震來虩々笑言啞々震敬馬百里

不喪七鬯

震ちかへ雷かみなりなり雷かみなりの発はつとるはつへ秋あき冬ふゆなり陰いん気き
小閏こにじらぬことなりこにじなる小春こはる夏なつの陽やう気きなり

震亨震來虩
々笑言啞々震
百里々振驚うは七

電^{でん}と喪^{そう}ふはず

初九震來虩々
後笑言亞々吉

初九。震來虩虩。後笑言啞々吉。

辞家の

同跡^{どうせき}として震驚^{しんけい}以下とて母くしてなり衆の辭^{ことば}人^{ひと}に流^{なが}る
のこゝと初九^{しつこう}へ変^{かへ}といふもむの初^{はつめ}ある由^{よし}と説^{とく}く顚々^{てんぜん}
萬^{まん}變^{へん}なありともべ初^{はつめ}お恐^{おそ}れしむ時^{とき}ハ福幸^{ふくこう}を得^えく
吉祥^{きちがう}あつるといつ之^{これ}啞々^{やや}とて安堵^{あんど}してより後^{あと}とびふける
とてこの爰^{ここ}變^{へん}ぞんが雷地豫^{らいぢよ}
なり豫^よといふところなり

○六二震來厲億^{しんらいりやく}

○六二震來厲億

喪具躋于九陵勿逐七日得

震雷の初令
來てる

六二震來くみくると厉なり
憶おもて貝かいと喪さう
九陵くりやう于の臚ら多おほ逐お
勿なれ七日しちじつは
て得え

く甚でし陰交の柔弱なる心ふ恐て九陵ふ躋て身とさこ
げのぐるゝとい億とと人の心ふかるゝ賤實なり心ふ貝

利とくと
咎とが无なく
永とこ貞とこふ
初はつ六む其その趾あしふよく良よる
そそののあしふよく良よる

子も猶ふむらうらう故ふ良止はば得ざるに背ふ良ま
 るに背へるるときはとなく欲を以て心も乱るるといふ
 子も吾こらうふ我といふととつてそのものなり庭ふ行
 近き人に見ざるに目へてめふ接つてざるが
 ゆへふ欲めとてととととて仍て咎はるるといふ

○初六

良其趾无咎。利永貞。

之陰柔の身よりて第一の下に良止實ふといふる処と
得るなりといふものの良止といふものの移るうごくる主
とて初六陰柔なれば下にお居て物の初より一むの象
のゆるえ答なりといふあるは陰柔なれば又さうな
堅固なりといふ仍て戒めてよく永く身と貞固と利に
とうと終と慎戒と始のどくうを答なり

九三其限そのえんふ限る
其その續つづく
心こころと薰かかと

六四其身そのみ不しな克よく其その咎とが无な一

○六良其腓不極其隨其心不快

九三良其限列其夤厉薰心

 九三の爻の主なりども中ふ過て良止との正中と得ざるなり六二陰柔なりかゆえ中正るもどゆ九三の過中と極しつるべ却る三ふ隨従なり夫ゆえ心快どしつる

下の間て下の上なるゆえ艮の上なる一陽の刪文といふまゝ
 きども中より此の故ふ艮の主なりといふ貴へより上
 の背の肉より限へ上下と間て艮止の義といふ故ふ貴肉
 と断列く上と下といふ属さるゝ此へ下ふ止まるの堅
 やつと物へ融通して宜きと与とるゝたつと云今九三
 圖偏固よりて背ふ艮正きといふの道と云うるえに
 安心なりととの意なり ○六四艮其身无咎

四六臣の位にして天下の良止座れものにとどむ座きい
その身陰柔にして又剛陽の君ありこの故ふ物にとど

六五其輔其良言有悔亡

ひきかたに、あつても陰柔、陰位の正きを得ることを吾身にとむるふたてを咎ふ。陰位、好で静まるる陰の性、ととむるゆゑなり。○六五良其輔言有

序悔亡

五の六ある、幼君又、摂政の大政、三四五六、山雷頤の象、り、面部の中、輔

上九敦敦艮言有悔亡

君の、ひきかたに、あつても陰柔、陰位の正きを得ることを吾身にとむるふたてを咎ふ。陰位、好で静まるる陰の性、ととむるゆゑなり。○上九敦艮言有

艮下巽上

巽上

艮下、艮の山、巽の木、り、漸、次第、巽上、巽上、とむる山も次第、外の意、木、り、次

漸漸女歸吉貞貞利

漸女歸吉利貞

漸、順、次第、とむる、女、の、嫁、とむる、義、

初六鴻鴻漸漸于干干咎咎无

小子厲有言无咎

干、水、屋、中、文、坎、水、の、下、

初六鴻漸于干

小子厲有言无咎、干、水、屋、中、文、坎、水、の、下、初六鴻漸于干、干、水、屋、中、文、坎、水、の、下、

六二 鳴盤于漸
吉 飲食衎衎

九三鴻陸子漸
夫征て復不婦
孕して育て不
凶之戚や禦る
利と

六四ろくしやう鴻こう木き于を漸しんじ
或ある其その楸きうをを得とく
咎とが无な一

五鴻陵于漸
婦三歲孕也
終おの之の小勝こかつ
莫も古こより

上九鴻陸于漸

經曲除而

るるゆえ自全ふとくむの意あり咎ありと人弔陽
るるゆえ急ふとて自全の義とくむあらんやとあり

○六二鴻漸于盤飲食衎衎吉

漸しだんで堆なみととろふにぐり水みづ死しうど河か珠たま田でん昌しょうとそ

こゝろがなゆえふ人の惡をうけざるゝ鳩の無
と叫ぶ飲食を祈々と吉なり

三鴻漸于陸夫征不復婦孕不育凶

利徳レ威レ
水鳥の胎マタをくちくちと陸地におお
て中へくちくちと入るふ夫サハシ下りくちくちと征イサさりて

復たお婦人外ふりて生育む九三の少男應ち
ふりて上へ妄ふ征々復ども六四の長女へ應ち

てカニホ^{カニホ}守^守節^節と^とう^うも^もう^うも^も私^私く^くふ^ふ交^交わ^わる^ると^と
 と^と仍^仍く^く女^女育^育せ^せざる^{ざる}人^人の^の上^上下^下の^の交^交儀^儀を^を一^一て^て凶^凶なる^{なる}ふ^ふ

戒慎下身と守ると云ふを害あらずと恐るふはよく

六日。曼所。二。六。又。其。上。角。

六四鴻漸于陸或得其桡

五智
より九三陸地といふより又陸より木
の上より水より土より又水より土より

止まりぐさし擁へ四角なる木の上をそよバその上より休
息を安んずることをいふ本より乙五鳥斬り

人ふどもまうにや答ふしとて
 大正赤津二
 妻。婦。三。或。下。子。冬。莫。之。券。告。
 鳩の浪止と

防婦三歲不_レ_レ紵_ニ身_ニ之用_ニ言_ニ その段々ふ

ふりて道の次第ふゆとるなりと急卒なり
りるなりと五と一と正應なりて中正の徳と同一と

ちやどども三四のふめふ阻るる三の二ふ比し四の五ふ比し
 けふ二五和合となさざるゆえふ妨とする記ふたふ志

くるといへども中正の道へつおふ亭といふ
この勝をとりてはるるなり○上九鳥斬干陸其

て吉利なりといふ

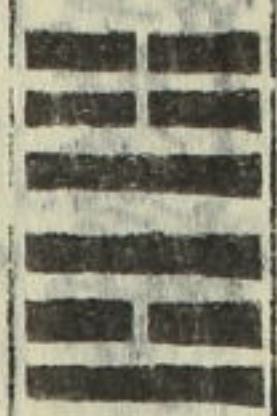
其羽用儀
為可吉

羽可用為儀吉

陸氏達の字と誤寫し、
達ハ鴻の字なり。雲路ハ上

九ハ高く位の外あり、他の卦に有て已過るとハ漸卦に
水于下、段々ふと上り、外に上る、小至る、人ふと上りて
世の常ふ、上る、出るとハ達人の高致、人ハ人の儀法、
かゝるべきとハ羽、羽ハ鴻の作用、羽ハ在、とゆえ、
羽儀とハ、その作法とる、とる、とる、
羽儀とハ、その作法とる、とる、とる、

兌下 震上



兌下 震上 震ハ動、年長ハ男、兌ハ兌、
震上 震ハ動、年長ハ男、兌ハ兌、

歸妹征凶利
攸无

歸妹征凶无攸利

古詩ハ女ハ已悦、
為小客、往くる、云云、

初九歸妹
跛能履

初九歸妹以娣跛能履

女の、さき、さる、心、の、よう、さ、び、
嫁、さる、の、婦、人、と、守、る、履、さ、る、男、と、さ、る、
さ、る、利、さ、る、

征吉
跛能履

征吉

六五ハ女君、
婦人の、さ、る、心、の、よう、さ、び、
嫁、さる、の、婦、人、と、守、る、履、さ、る、男、と、さ、る、

九二眇能視
幽人之貞

眇能視幽人之貞

陽文中、
徳、り、と、ハ、六五、正、應、

六三歸妹
以須

妹以須反歸以娣

この婦三の上より、
さ、る、利、さ、る、

六五帝乙妹と歸す其君の袂に其嬪の袂の良なり如月望み幾し吉なり

六五帝乙歸妹其君之袂不如其娣

陰交^{イニョウ}とて尊^{ウツクシ}なり。中^{ナカ}に
高貴^{コウキ}身^ミを有^ユふ姉^{イモエ}姫^{ヒメ}と云^{イハ}ふ九

二の正應ふ天子の宮の諸侯へ下嫁しんとすむゝ一般の天子と帝の妹姫の下に嫁しむと有げんふこの卦象ふ配むとのよりこの帝に至るて昏れ男女の分別なくとも示しむ貴人の姫といふ

上六女筐こ承う
實じ无く士し羊ひつ也なり
无く利り攸く也なり

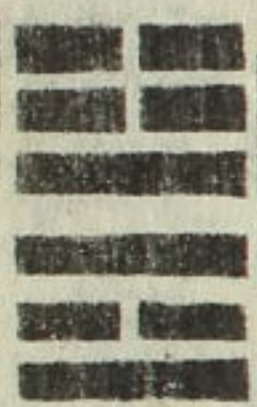
天婦の道

夫とありては位下といへども男ふ高枕さるべきこと明
る古昔の帝の妹姫と嫁せしありし時ふ妹とて衣服
器も綸綯と用ひしその庶婦の女子とて羨する品と
えり此と君の袂の婦の袂ふ不如とていふあり兒
と知る十分と下りし月も望日ふ幾
八九分あるところと心得を告げりとぞ

上六

上六

離下震上



離下 離明^うふてより震^ふ動て亨成^うるのこ
震上 ろふて豊^{ゆふ}るの意とよく豊^{ゆふ}といふ

豐亨王假之勿憂宜日中

初九其配主遇

六二其部昂見斗往得疑疾

有孚發若吉

九三其沛沬折其右肱无咎

豐亨王假之勿憂宜日中

初九其配主遇
明德四方
初九其配主遇

其配主雖旬无咎往有尚

六二其部昂見斗往得疑疾

有孚發若吉

離明之賢臣
陰柔不正

九三豐
其沛日中見沬折其右肱无咎

其沛日中見沬折其右肱无咎
離明之賢臣
陰柔不正

九四其部豐
其夷主遇吉

六五章來
慶譽有吉

上六其屋
其家關其
戸其元三
歲觀

右の脈入るる自由勝手なるゆえなり
九四其部豐其夷主遇吉
○九四豐其部日中見斗遇其

夷主吉
二句の十字の義の上ふるなり初九離の初なり
九四の震の初なり應文ふりて同き剛陽なる

夷主吉
二句の十字の義の上ふるなり初九離の初なり
九四の震の初なり應文ふりて同き剛陽なる

○六五來章有慶譽吉
父交と革と

君位ふ在る豊大の政吏なり六五今陰柔の才なり
○上六豐

其屋部其家關其戸聞其元三歲不
觀山

陰柔の暗く高き極めて人の言を用いず人
其屋部其家關其戸聞其元三歲不

觀山
陰柔の暗く高き極めて人の言を用いず人

艮下離上



艮下離上
離火之艮山なり山艮止その内ふり

旅小亨旅貞吉
六五得外あり四と上

旅小亨旅貞吉
六五得外あり四と上

初六旅瑣々斯其所取災
初六旅瑣々斯其所取災

初六旅瑣々斯其所取災
初六旅瑣々斯其所取災

初六旅瑣々斯其所取災
初六旅瑣々斯其所取災

初六旅瑣々斯其所取災
初六旅瑣々斯其所取災

六三旅次即其資得童僕負

九三旅其次焚其童僕喪其負

九四旅處于其

子細九四陽性實多離隔下就のころ

六三旅即次懷其資得童僕負

陰爻居又中正の徳有りて金銀懷中の資を得る

九三旅焚其次喪其童僕負

厲旅處の道へ兎う柔和身と謙下

九四旅于處得其資負我其心不快

其資斧得我其心不快

六五雉之射一矢亡終譽命

亡終以譽命

六五射雉矢

雉之射雉毛色文明さ

上九鳥焚其巢旅人先笑後號咷喪
後易子喪咷牛
咷

上九鳥焚其巢旅人先笑後號咷喪
旅中ふ有てその道とて謙孫柔
とくその身安心无憂るふ今上九
牛于易凶

巽下 巽上



巽下 巽上 巽順從とよむり一陰の下ふ二陽
巽上 巽上 巽上 巽上 巽上 巽上

巽下 巽上
往彼有大利
大人見るふ利
あり

巽小亨利有攸往利見大
兄内と陽文と一外と陰文と一巽内陰文外陽文
君子あらし一内心柔謙る時心志一たらし一と
身と心と人ふあらし一と小吏する宜一と此の由一

初六進退利武
人之貞ふ利
あり

初六進退利武
人之貞ふ利
あり

九二巽
在史巫用
若吉咎无

九二巽
在史巫用
若吉咎无

九三頻頻巽巽者者

六四悔亡悔亡田田獲獲

九五貞吉貞吉悔亡悔亡
利利不不亡亡無無終終有有庚庚先先
後後三三日日吉吉

多しとつるこの心信の心さふえと紛若るぞ
つねふとつるこの心信の心さふえと紛若るぞ

○九三頻頻巽巽者者 在在元元巽巽順順之之のふりて今

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

三品三品 悔亡悔亡子子細細陰陰以以陰陰位位居居上上卦卦の下下体

上九巽巽其其林林下下
小小在在其其資資斧斧之之
喪喪其其資資斧斧之之

兌下兌上

兌亨亨利利貞貞

得て且貞正貞正用用ゆぐゆえふ悔亡悔亡て吉吉なり随随つて更

終終るるの殿殿の先先三日三日とて丁丁の日日なり後の二日二日ハ斧斧と

丁丁寧寧なり癸癸亥亥癸癸度度となり万万変変なり丁丁寧寧とて後の二日二日ハ斧斧と

癸癸度度となり癸癸亥亥癸癸度度となり万万変変なり丁丁寧寧とて後の二日二日ハ斧斧と

癸癸度度となり癸癸亥亥癸癸度度となり万万変変なり丁丁寧寧とて後の二日二日ハ斧斧と

癸癸度度となり癸癸亥亥癸癸度度となり万万変変なり丁丁寧寧とて後の二日二日ハ斧斧と

坎下 巽上



坎下 巽上

波水より巽風より風水上行

渙亨王假有廟利貞

渙亨王假有廟
利貞
利貞
利貞

渙亨王假有廟利貞
五

の君剛陽中正あて六四又陰の正きて以て君ふ承て
命令て下つて示し又九二の大臣剛徳あり坎の雨水
るゆゑ巽の風ふくそその膏澤と民ふ得てこゝ渙
艸木芽と出さるゆゑふ事とあるこゝ又水いふ時
こゝる風ふく時渙る此亨の道之王廟中ふ假
あり丹誠とて一拜し祖考の神靈来格
あり此魂氣とて又精心とて渙るるゆゑのこゝ
あり又巽と木と一坎水ふ浮て舟の象とて大川と波
ふ利ありとて人の心とて一利ありとて
うのたぐひ大夏とて一貞正とて用ゆるゆゑふ利あり

初六用極馬壯吉

初六用極馬壯吉

初六と渙の初と渙と

九二渙其

九二渙其

九二渙其

机悔亡

机悔亡

六三渙其

六三渙其

六三渙其躬无悔

六三

九五えん渙くわんとるに其その
大號たいごうと汗あせのどく
王居おうきょと渙くわんす

六四○渙其群○

九五 剛德

上九其血^{そのち}と渙^{さん}以^{もつ}去^{さる}て^て逃^{にげ}出^でる^るを^を咎^{とが}无^く

兌下坎上

事留滞して壅塞と成り逆貨を
てゐるが小至るゝとんとてゐる

九四の賢臣と同徳相合して渙散を止めとらふに上乃
渙とあるは渙散の時節として下の渙の字は道なり上は
恩澤を天下に大に號令し多いて注ぐとして人々身ふりて
心服するとして尚ほ王は居積りて財宝を渙
散せしむるなり心て渙と救の字も渙と散と散り又
渙散せしむると止めとらふなりまた小を施しとらふ大
とあらめ手ふ入るの道なりなり○上九渙其

○上九渙其

坎永るり見澤池るり水澤あま
るとに澤する堤さそ有て水たま

るるり節と云く卦名とする子細へてよくさういす
るの象と竹の節ふとりてたゞ節はうへひるゝもの也

して人の操節のどし中よ

節亨苦節不可貞
貞とく不

節亨苦節不可貞

澤中水と受るも
堤ありて十と節限

と十と過るは天下の法と立
るも漢の世の三ヶ条とて天下の法と立

の多きありて世とて節の多きありて
仍る事ありて節と過る事ありて

初九戸庭不出
咎无

戸庭无咎

戸庭内庭と外庭と陽と以て
下と在るも他卦とちういて

戸庭无咎

戸庭内庭と外庭と陽と以て
下と在るも他卦とちういて

どと止るも節の卦とて止るも
るるも節止るとして止るも

家はりこの父の意へ人の言行とつ
口と震と身のやとつて

九二門庭不出
咎无

九二不出門庭凶

初九と戸庭と
九二と

出る

門庭より九二居ていつい剛中の才智
もとりまゐるも節止るも動るも

六三節若て不則
咎无

六三不節若則嗟若无咎

六三中
正位

うは又坎の險阻の時うは宜
ふがて他の卦と異とて

六四安節と亨

安節亨

六四陰柔と以て陰位と安堵と
且剛徳中正と九五の君と承と

安節亨

六四陰柔と以て陰位と安堵と
且剛徳中正と九五の君と承と

九五甘節と吉
有

中正と以て操節と為の象と身安と
節ありて事と亨とて

五甘節吉往有尚

九五剛徳中正の君と
節の主と

兌下巽上

中孚豚魚吉大

巽兌
上下

兌下
巽上

巽兌合する時へ中虚ふして心の象と心中心物るれと孚信と心体

虚靈きやうりやうとして昭不所なり合休離あて文明の象と卦名中字とある所以なり

中孚豚魚吉。利涉大川。利貞。

と豚と魚
と翼の

川と流るる
うゝ貞ふ利り

初九虞夏告空
有燕不

九二鳴鶴陰
在其子之口
我小好爵有

象るる無知ふして感通するの象と取り字へ大信と
と注して至誠眞實なることなり誠の至ふなりと
大事遂成履るる此の故ふ大川と洩ふ利と云中孚と
信と守るの道なり信と守るる正固堅剛なりと
成るるしと乃て貞ふ利と云又巽を木なり卦象内
虚なりて外實なり舟の象なり澤水のふなりこ
の故ふ大川と洩るふ
○初九虚吉。有它不燕。

初四陰陽とも小位正しくして相應る下卦兌悅順從
の身をも凡く事小字と不字とあり可信と不
可信といひ其時と時をもぬく眞の心して吉
と察し知るべし他の心ありて変ると此心燕う
ど燕ういひて燕ういひて燕ういひて燕ういひて
うり坎かん苦勞とありてたのしみなりて心も燕う
ざるぞと
○九二鳴鶴在陰其子和之我
有好好爵吾與爾靡之
字とたふし卦
ありゆえ小應を

六三敵と得る

求め初めづるの至りて感通するやれつとむかえ
 るりたてへ親鸞ハ出み隠する所小在く鳴るの難雀こ
 まて聞て和らと云我小徳りともぞ人れとまていき
 たる人と徳と共りともく好爵祿と得て人ともふ
 官位くわんゐとてのむ又二説ふたつ不好爵ハ美酒びやうしやくより靡みハ酔よと
 るり美酒びやうしやくと飲ので我と再またと共ともをひたのーまんまんと乃
 心より二人ふたり心志しんしとゆるぼよ
 ともとつとも
 ○六三得敵ろくさんとくてき或鼓あるこ或

二卦と見る時ハ外実内虚にして

○西月幾望馬匹

九五孚有掌如
咎无

上九うへにん輸へ音へん天てん于ふ
登のりるり貞ていもも凶きうなり

六四、孚の主交うり四五、君不近、陰之臣、
近君の光と承ると月月の望日、不幾々、

九

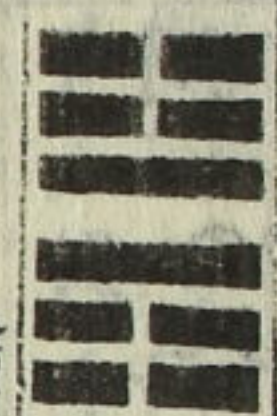
九五君位の正一
居りて刑徳ある賢君

○上九翰音登于天

上うへの終はつる故ゆゑに信しん実じつやとていふに翰かん音おんと
家け難なんうり音おんたうく天てんに飛とのなりてきこゆれ

どゆその形飛とらふべふにたて聞ありて徳ふ
 孚信の名をうりありて信實のすべふにたて此を善

艮下震上



艮下震上 震の雷聲艮山の高ふところ其の象

ことや、一守て交通するべし、節の上爻とて、節中の一守と保るるあり、ことども変て、又、貞正とす。

小過亨貞利

小過亨利貞可小事不可大事飛鳥

遺之音不宜上宜下大吉

遺之音不宜上宜下大吉

飛鳥之音

飛鳥之音

遺之音不宜上宜下大吉

初六飛鳥以凶

初六飛鳥以凶

六二其祖遇

六二過其祖遇

其祖遇

其祖不及其君遇其臣无咎

九三過之
弗過防之
從或我之
凶

九四咎无過
弗
戒勿用永貞

過行て其咎ふ過とつうり又二と五と君臣とていつ時
小過のとき小臣と以て行過して君ふ近付つるとい
へども心は戒止て尊位とて近付及不きことの時
て臣の分とまゝり臣の位と過つてとるものと咎无
す○九三弗過防之從或我之凶の時
陰過て陽位をうり一時は九三その陽位ふ在
て正居る重陰小人の為ふ咎ふるまゝ九三
づう剛と情で幾ふ危ぶる防とて過るべし急
まゝの身中より陰の時小過
て九三と我とを如何とも為べきやうに凶
小過四陰のまゝとるやうに事と二陽とを
以て九三と我とを如何とも為べきやうに凶
まゝの君平陰の小人その蔽ふ從乗して之と我とを
山の道○九四无咎弗過遇之往厲必
戒勿用永貞

此文小過のとき小當て剛とつて
柔位小居るやうに小剛小とるやうに
戒勿用永貞

永貞
勿用

六五密雲不雨
自我西郊
公弋取
彼在穴

上六遇過
之飛鳥
離之凶
是謂災眚

○六五密雲不雨自我西郊公弋取
彼在穴

彼在穴

陰するゆゑその雲と成るといふべし陰陽和
るに能はる時雲密まてて雨ふるといふべし
西郊陰の方より小畜小西郊の解より彼在穴六二
艮の中虚の所より故より二中正の徳より
巽の士の意より飛鳥過行の象上下より
と入而陰大支と相為といふ雲密なるの
雨遂にふるやうに

○上六弗遇過之飛鳥

離之凶是謂災眚

九三高宗鬼方
又伐三年
克之小人勿用

との喻より進でついでに求め遂に勿き一但
まゝ時節のつる日ありきやえ七日と待てらるるに
得たりとるより子細卦六六位
り七度と経て一変よりかゆ
○九三

高宗伐鬼方三年克之小人勿用

既小成の初より九三陽爻と以て陽位より
賢と以て剛と用ゆるの宜きとんむ
世の大平のとき高宗帝北の鬼方の暴虐して
民の困窮とさうめいて征伐し
賢君大不可と不徳の小人大不可との文と用
勿きとるよりその軍吏賊室つる民の害とる
兵法も拙くても速く計策とる可と巧者
の大將の父く手解る事とるものと
りる小帝三年ふく克伐と得るものと此文と得
るものと小人ふく
○六四繻有衣袽終日

六四繻有衣袽終日

有終日戒

戒

六四より見る時二三四の互坎の水より
初より坎の卦より水休よりとるふ船の義より
取より坎の字より作より
衣知衣服の字より
ふさぐの具より此文と章より張清子の説ふ事と
たより清の時と事と華人とる時と
とるふと終日とるふとて用心とるふと

九五東鄰殺牛不如西鄰之禴

祭實受其福

國家と治條と法度祭司乃
文飭と用ゆると君徳の誠

神明より事る心の誠と在て供とるものと美とるものと
連とるものと東と西とるものと牛とるものと牲供と

祭紀の念とて厚とるものと禴とるものと薄きものと
り東鄰九五より西鄰六二より五中より過より二

九五東鄰の牛
殺祭とて美
禴祭とて受るふ
其福とるふ
如不より

三

九四頁吉梅ちゞ
震て用て鬼方
伐三年して大
國子賞
有

六五貞吉ふきん
悔无君子之光くわいむきんしのかう
孚有て吉ふありきう

[illegible]

貞吉悔亡震用伐鬼方三年有賞于

大國
九四ノ刪德離明ノ賢文ト云ク中ニミナ
ミテトクテ世ノ有テ安堵スルモノ

とて、刪文を以て君にたとるにかや出でく
苦勞とはとめずどうもうべその功をとるにとこの

故に負うをぞきりて協亡とて此と鬼方と伐ふた
とてつる軍と震一戦伐とて三年の文が

ときむる時ハナハ功イサナ人ヒトとて大オホ国クニ
 とたまふて恩賞オンカウりふふとて
 ○六五貞吉テオ

无悔君子之光有孚吉

して衆賢人の言をけるの君なり己ふ至善の徳
を以て真正とまのり得るよしを告ぐるて悔るる

上九孚有攸飲
酒不于兹咎无
其首无濡不也
孚有て是
失を

○上九有孚于飲酒无咎濡其

首有孚失是

酒ひと飲のく世よととくといふもり但ただ一ひと酒ひととくといふもり

放埒ふつりてゐる初はつ小亭せうていやたゞさうしし身みのこととる
るるぐぐ夏なつの是こゝききととり失うささとと下したとと之これ濡ぬ首くびととるる小亭せうてい

過て身と漚うみ濡ぬまり首漚うみうるうとういいまま
身みととううるる心こころののままれれととううるるあ

146

卷之三

周易辭師卷之三終

周易餘師卷三終

經曲、餘而

周易卷之三

六

